



## 2024年 野外礼拝

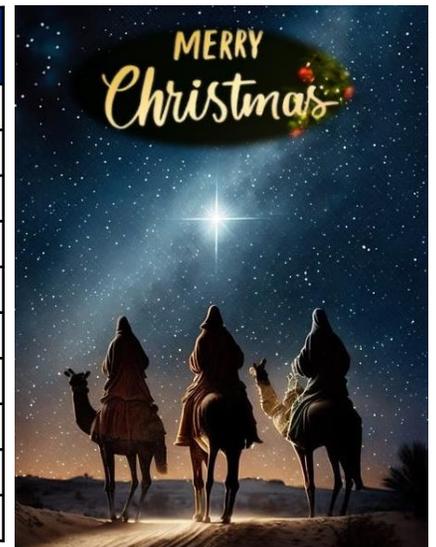


2024年10月14日(月・祝)11時、代々木公園で純福音東京教会の聖徒が集まり、野外礼拝をお捧げしました。志垣重政担任牧師が御言葉を取り次ぎ、教役者と聖徒300名以上で賛美と祈りをお捧げしました。また、礼拝の後は食事と様々なレクリエーションで恵みの時間を共にしました。



### 目次 (宣教特集)

P2	日本宣教① - 中部地方&八丈島&房総地方
P3	日本宣教② - 東北地方 I & II
P4	日本宣教③ - 関西地方
P5	日本宣教④ - 九州地方&沖縄
P6-7	日本宣教⑤ - 東京近郊
P8	日本宣教⑥ - 北海道宣教&音楽祭礼拝
P9	世界宣教① - 台湾宣教&新生命教会と姉妹教会協定締結
P10	世界宣教② - マレーシア宣教&バツレハム聖歌隊の賛美奉仕
P11	純福音日本総会 / 純福音立川教会&奈良教会 担任牧師就任礼拝
P12	純福音沖縄教会 西津芳昭牧師の証



2023

Spiritual Message 

by Rev. Shigemasa Shigaki

2023年スピリチュアルメッセージはこちら



家族新聞はWebとLINEも更新中



# 日本宣教① 中部地方&八丈島&房総地方

## 中部地方宣教 2024年4月22日-24日(月-水)



純福音上山田教会



純福音金沢教会



純福音浜松教会



純福音上田教会



富士バタニヤ支聖殿



純福音沼津教会



純福音甲府教会



## 房総地方宣教 2024年7月1日-3日(月-水)



純福音千葉教会



純福音松戸教会



純福音君津教会



純福音市原教会



純福音成田教会



純福音つくば教会

## 八丈島宣教 6月27日(木)



八丈島地域

# 日本宣教② 東北地方 I & II

## 東北地方宣教 I 2024年6月23日-26日(主-水)



純福音小山教会



純福音新潟太田教会



純福音新潟教会



純福音新潟GOOD教会



純福音新潟群馬教会

## 東北地方宣教 II 2024年9月22日-27日(主-金)



純福音酒田教会



純福音山形教会



純福音岩手シオン教会



純福音遊佐大愛教会



青森地域



純福音遊秋田イエス愛教会



純福音仙台教会

# 日本宣教③ 関西地方

関西地方宣教 2024年9月1日-7日(主-土)



# 日本宣教④ 九州地方&沖縄

## 九州地方宣教 2024年10月6日-11日(主-金)



純福音岡山教会



奈良支聖殿(現 純福音奈良教会)



島根地域



純福音広島教会



純福音大分教会



純福音主の愛教会

## 沖縄地方宣教 2024年11月4日-7日(月-木)



純福音沖縄教会



純福音沖縄恵み教会



## 日本宣教⑤ 東京近郊(1)



3月25日(月)  
純福音エデンの園教会  
栗原敬子牧師

4月14日(主)  
錦糸町支聖殿  
カン・セヨン牧師



4月21日(土)  
純福音八王子教会  
ファン・ウテ牧師

5月12日(主)  
川崎支聖殿  
コ・ボクドク牧師



6月9日(主)  
日暮里支聖殿  
佐々木栄子牧師

6月16日(主)  
藤沢支聖殿  
ベ・ジョンスク牧師



6月30日(主)  
純福音葛西教会  
オ・ミヌ牧師

## 日本宣教⑤ 東京近郊(2)

7月14日(主)  
立川支聖殿  
(現 純福音立川教会)  
ハン・テスン牧師



7月28日(主)  
純福音福生教会  
ホ・ゴニョ牧師

8月18日(主)  
純福音清瀬教会  
コ・ミソン牧師



10月13日(主)  
純福音船橋教会  
キム・チャンミン牧師

10月14日(月)  
純福音川越教会  
田邊八辺津牧師



11月24日(主)  
純福音船堀教会  
遠藤高示牧師

## 日本宣教⑥ 北海道 2024.8.25-29(主-木)

2024年8月25日(主)~29日(木)、北海道宣教会を中心とした宣教団は、北海道宣教のため札幌を訪れました。8月26日(月)には、キリスト教大韓神様の聖会(キハソン)総会の常任委員20名ほどが韓国より来日し、共に札幌聖殿創立6周年を祝い、礼拝をお捧げしました。



### 札幌聖殿創立6周年祝福聖会:恵み (オム・ジニョン牧師)

十字架の言は、滅び行く者には愚かであるが、救にあずかるわたしたちには、神の力である。

コリント人への第一の手紙 1:18

8月26日(月)18時30分より札幌聖殿創立6周年祝福聖会が開かれ、汝矣島純福音スウォン教会の担任であり、キハソンの総務も務めるオム・ジニョン牧師が「恵み」という主題でメッセージを取り次ぎました。

「私たちが生きていることは、それだけでも計り知れない神様の恵みが注がれていることを覚えましょう。こうして空気を吸っていることも自然が養ってくれていることも、私たちが生きていく上で必要であり、全てが神様の恵みなのです。そして何よりも、イエス様が私たちのために死なれた恵みによって生きていることを告白してください。神様の栄光を現す価値ある信仰者になり、神様の力で勝利する聖徒となりますように。」と祝福しました。

メッセージの後は、北海道宣教会長であるパク・ヒギョン勸士から、祝辞と神様の導きで建てられた札幌聖殿設立の経緯の説明が行われ、ギハソン総会長ジョン・ドンギユン牧師(ソウルナンプ教会担任牧師)とシン・ドクス(ハンイル純福音教会担任牧師)からも祝辞があり、札幌聖殿を通して、日本に地に聖霊の働きが起こり、大きなリバイバルがあることが宣言されました。



### 音楽祭礼拝:全ての重荷を負うて苦勞している者よ (志垣重政牧師)

8月28日(水)は、手作りの韓国料理で札幌聖殿の聖徒たちと食事の交わりが持たれた後、19時30分より音楽祭礼拝が開かれ、札幌神学校の神学生と純福音東京教会の聖徒が、この日のために心を合わせて準備した演奏と合唱をもって、神様に賛美をお捧げしました。

この礼拝を導いた志垣重政担任牧師は、「すべて重荷を負うて苦勞している者よ」という主題で御言葉を取り次ぎました。

「重荷を背負って下さる方はイエス様です。イエス様の道は、恵みの道、成功の道、喜びと平安の道です。へりくだった心でイエス様について行き、いつも喜びと感謝と平安が溢れますように。そして、神様と共に歩み、祝福を分かち合う聖徒一人一人となりますように。」と祝福しました。



札幌聖殿がますますリバイバルし、札幌神学校を通して多くの主の僕が輩出され、日本の地に驚くべき神様の計画が成就されることをお祈り致します。



# 台湾宣教 & 新生命教会との姉妹教会協定締結

チョー・ヨンギ牧師台湾宣教記念聖会 2024年9月12日(木)



チャン・マオソン牧師が担任を務める台北の新店行道教会にて、2024年9月12日(木)19:30よりチョー・ヨンギ牧師 台湾宣教記念聖会が開かれ、故チョー・ヨンギ牧師を慕う多くの台湾地域の宣教師や聖徒と共に礼拝をお捧げしました。

この聖会では、チャン・マオソン牧師がメッセージを取り次ぎ、志垣重政担任牧師が事務総長を務めるDCEMの準備した映像を通して、チョー・ヨンギ牧師の生前の功績と台湾宣教の軌跡を振り返りました。そして、台湾とアジア全土に福音が宣べ伝えられ、より一層のリバイバルが起こることを信じ、切に祈りました。

志垣重政牧師より式辞を通して恵みを分かち合わせ、新生命教会(New Life Church)のク・チュン牧師の祝祷で聖会が締めくくられました。

## 式辞 (志垣重政牧師)

チョー・ヨンギ先生は祈りの人であり、時間を守る方であり、真面目で誠実な方でした。そして、決して否定的な言葉を口にしない方でした。

私は約40年間、チョー・ヨンギ先生に仕え、世界を120周回り、70カ国350都市で聖会を共にしましたが、その半生で私がチョー・ヨンギ先生から教わったことは、『どのような状況でも肯定的な考えを持ち、否定的な言葉を口にしないこと』です。そして、五重の福音、四次元の霊性、三拍子の祝福です。私はチョー・ヨンギ先生の世界宣教の証人になれたことを誇りに思い、感謝しています。

チョー・ヨンギ牧師は、台湾の牧会者と聖徒を心から愛していました。私は日本で力を尽くして牧会をします。台湾の皆様は、台湾の地で素晴らしい福音・大いなる福音を宣べ伝えてください。

全ての栄光を神様に捧げます。



新生命教会との姉妹教会協定締結 2024年9月15日(主)



2024年9月15日(主)13時より、新生命教会 (New Life Church)で姉妹教会締結式が執り行われ、志垣重政担任牧師と新生命教会ク・チュン担任牧師により、姉妹教会協定が締結されました。

ク・チュン牧師(アブラハム・クー牧師)が導く新生命教会は、聖徒の平均年齢が30代半ばで青年層が多く活躍している教会です。そして、子どもたちが主体的に教会を運営するキッズチャーチ、地域活動やオンライン活動など、多様な革新的方法を用いて霊性訓練を行い、次世代の信仰者と教会指導者の育成に成功していることで知られています。

また、2024年5月に純福音東京教会で行われたダイヤモンドウィーク特別聖会では、ク・チュン牧師がキッズチャーチの聖徒と共に訪れ礼拝を導くなど、これまでも相互の交流を活発に行ってきました。

この協定により、純福音東京教会と新生命教会は姉妹教会となり、福音伝播や教会開拓、弟子訓練、人材育成、様々な人材交流と情報共有などを通じ、これまで以上に力を合わせ、両国の福音化と両教会の発展・友好の促進のために相互に取り組みます。

両教会を通じて、日本と台湾の地に聖霊運動が巻き起こり、東アジアから世界中に偉大なる神の栄光が現わされることを切にお祈り致します。

## 主日礼拝 (志垣重政牧師)



青年層の多い新生命教会では、金曜日～主日にかけて4部の主日礼拝が捧げられています。その4回の礼拝のために、志垣重政担任牧師が4つのメッセージを準備し導きました。また、純福音東京教会の舞踊チームも、韓国伝統舞踊を披露する4つの演目を通して、神様に栄光をお捧げしました。

## マレーシア宣教 2024.5.1-3(水-金)

話がすむと、シモンに「沖へこぎ出し、網をおろして漁をしてみなさい」と言われた。シモンは答えて言った、「先生、わたしたちは夜通し働きましたが、何も取れませんでした。しかし、お言葉ですから、網をおろしてみましよう」。そしてそのとおりにしたところ、おびただしい魚の群れがはいて、網が破れそうになった(後略) — ルカによる福音書 5:4-7 —



5月29日-31日、純福音東京教会の宣教チームは、マレーシア・クアラルンプールを訪れ、「ファイヤーカンファレンス(炎の聖会)」に参加しました。そして、メイン講師として招かれた志垣重政牧師が礼拝を導きました。

ファイヤーカンファレンス(炎の聖会)は、台北新店行道教会の担任牧師であるジャン・マオソン牧師が主催する中華圏福音化のための聖霊集会です。

台湾から始まったこの聖会は、現在では香港、ニュージーランド、オーストラリアなど9か国の中華圏地域にまで拡大しております。

マレーシアでの聖会は2023年よりスタートし、今年で2回目であるにもかかわらず、4000人もの聖徒が集まり、共に主の御名を叫び求める恵みの聖会となりました。

志垣重政牧師は、ルカによる福音書5:4-7の御言葉から「失望の中にいたペテロがイエス様の御言葉に従順して奇跡を体験したように、イエス・キリストを人生の船に招くことが私たちの人生の鍵です。」と伝えました。

そして、「様々な人種や宗教が混在し、伝道が禁止されているマレーシアにおいて、イエス・キリストの考えを持ち続けることが大切です。」と伝え、現地の聖徒を励まし、更なるリバイバルを共に祈りました。

## ベツレヘム聖歌隊の賛美奉仕 2024.11.8-10(金-主)

2024年11月8日(金)から10日(主)、純福音東京教会の水曜2部礼拝(毎週水曜日19:30~)のベツレヘム聖歌隊が、韓国ソウルを訪れ、汝矣島純福音教会の礼拝、および国民ヴィジョン倶楽部(韓国のクリスチャンオピニオンリーダーで運営される非営利社団法人)の月例会で、美しい賛美で主の栄光を現しました。



## 純福音日本総会 & 牧師授手式 2024.10.21-23(月-水)

2024年10月21日(月)から23日(水)、純福音日本総会が韓国オサンリ祈禱院で開催されました。

純福音日本総会は、北は東ロシアのハバロフスク、南は沖縄に至るロシアの一部と日本各地の80を超える純福音教会の宣教師が一堂に会し、互いの働きの報告や情報交換、および学びと訓練が行われ、励まし合い、新たに力を受け、一体となって日本宣教に取り組むための毎年行われる一大行事です。

そして、22日には牧師授手式が執り行われ、純福音東京教会の佐々木栄子伝道師(日暮里支聖殿担当)、チェ・ミギョン伝道師(秋川祈禱院担当)、ユン・ギョニョ伝道師(奈良支聖殿担当)、ベ・ジョンスク伝道師(藤沢支聖殿担当)、ハン・テスン伝道師(立川支聖殿担当)、チェ・ジョンジャ伝道師(純福音東京教会総務担当)の合計6名が牧師授手を受けました。



## 純福音立川教会 & 奈良教会 担任牧師就任礼拝

立川支聖殿ならびに奈良支聖殿は純福音東京教会より独立し、それぞれ純福音立川教会、純福音奈良教会となり担任牧師が新たに就任しました。これを受け、両教会で担任牧師就任礼拝が捧げられました。

### 純福音立川教会 担任牧師就任礼拝

2024年11月25日(月)

純福音立川教会にはハン・テスン牧師が就任し、11月25日(月)11時より担任牧師就任礼拝が捧げられました。

礼拝は純福音日本総会・総会長である志垣重政牧師が導き、純福音東京教会の教役者と聖徒、そして純福音日本総会・東京地方会の宣教師が集まり、ハン・テスン牧師の担任牧師就任を祝福しました。

純福音立川教会とその聖徒に主の祝福が豊かに臨み、立川地域における福音伝播がさらに力強く進められ、実を豊かに結ぶことをお祈りいたします。



### 純福音奈良教会 担任牧師就任礼拝

2024年12月2日(月)

純福音奈良教会にはユン・ギョニョ牧師が就任し、12月2日(月)11時より担任牧師就任礼拝が捧げられました。

この礼拝も志垣重政牧師が講師を務め、純福音日本総会・関西地方会に所属する各地の教会の聖徒と宣教師が集まり、ユン・ギョニョ牧師の担任牧師就任を祝福しました。

純福音奈良教会が奈良地域の光となり、聖徒の大いなる祝福を通して奈良地域の大きなバイブルを牽引する教会となりますように、お祈りいたします。





## 純福音沖縄教会 西津芳明 牧師からの証



### 火事で聖殿が消失する苦難からの復活

2023年2月の晩のことでした。山口県で開催された純福音日本総会・九州地方会を終え、帰路に着いた日のことです。那覇空港に到着するや否や、多くの着信電話やショートメッセージが入っていることに気付き、連絡を取ったところ、教会が火事という話でした。すぐに駆け付けましたが、消防車や救急車両でゴッた返していました。

当時の純福音沖縄教会は、2階建てビルの2階に入居しており、1階のハンバーガーショップは既に全焼、教会も真っ黒の状態であることがひと目で分かりました。とても心が痛み、焦燥しました。

現場検証の結果、ネズミが電線をかじったことによる漏電で、火花がハンバーガー店の油に引火したということでした。幸い教会にもお店にも人がおらず、死傷者などの人的な被害はありませんでした。当日は水曜日で、九州地方会の予定がなければ多くの聖徒を迎えていたはずの日であったことを考えると、主に感謝すべきことです。

翌日になってようやく中に入れましたが、やはり内部は煤(すす)で真っ黒で、絶望的な光景だったことをはっきり覚えています。入室許可を得た日からは、多くの聖徒やボランティアが集まって下さり、煤(すす)を払い、バルコニーを含めて水洗いをしてくれました。音響や映像機器も全滅かと思われましたが、奇跡的に使用することができました。当然電気は使えない状況でしたが、知人の好意でバッテリーを借りることができ、その動力で音響・映像機器を動かすこともできました。多くの方の愛ある行動のおかげで、礼拝を捧げられる状態まで復帰させ、共に礼拝をお捧げできたことは、ただただ、主に感謝を捧げるのみです。

問題は、老朽化もしていた焼けたビルの取り壊しが決まり、すぐにでも移転先を探さなければならなかったことです。家主とハンバーガー店は、法廷闘争に至るほどに揉めていて、教会の移転に対し、何ら補償は出ませんでした。3ヶ月後ようやく現在の場所が決まり、必要最低限の準備を終えて、2023年7月末に移転しました。

以前は60席以上の礼拝堂でしたが、移転先は約半分の30席ほどのスペースとなりました。しかし、全焼するほど火事の中、教会が煤(すす)で黒くなってしまったことを除けば無傷で、主日はもちろんのこと、早天祈祷会・水曜聖書勉強会・金曜礼拝も守れるようにしてくださった主に心から感謝を捧げました。また、教会を移転して最初の礼拝を捧げた時も、感謝の心で涙を禁じ得ませんでした。

### 病とリハビリ生活からの牧会復帰

このような試練があった2023年が過ぎ去り、新たな思いで新年を迎えた2024年1月7日の晩、今度は進行性脳梗塞で倒れてしまいました。

最初はトイレに行くことができたのですが、徐々に身動きが取れなくなり、ついには全く動けなくなりました。妻を呼ぼうと叫んだのですが、声が出ずに自分自身に何が起きているのかも理解ができない状態でした。幸い妻が気付いてすぐに救急車を呼びましたが、救急車の中で更に容態が悪化し、意識を取り戻した時には集中治療室にいました。

脳梗塞は、最初の1時間が勝負で、運よく早期に発見されたら、脳梗塞を止める注射で悪化を防ぐことができます。しかし、発見された時は既に3時間以上も経過していたため、救急による投薬も出来なかったと後日に聞かされました。そして、左半身が完全麻痺となってしまいました。集中治療室から一般病棟に移ってしばらくしてからは、リハビリの日々が始まりました。

脳梗塞の影響で、ろれつも回らず、特に左側に感覚が無い現状を前にして、どうしたらよいか分かりませんでした。祈ろうとしても思い通りに祈ることもできず、正直に話すと絶望すら感じていました。加えて、当時コロナが再流行し始めていたことで、自由な面会すら許されず、家族との面会に限り一日に1回だけ、しかも10分だけと言う制限の中で、とても切なく辛い日々を過ごしました。

それでも時間が経ち、何とか祈れるようになってからは、徐々に肯定的な思いをとり戻すことができるようになりました。そのような最中、2月9日に志垣重政総会長がお見舞いに来て下さり、病院の特別な計らいで家族以外の面会を10分だけ許可してもらうことも叶い、お祈りをいただいたことが大きな力になりました。何よりも励まされたことは、総会長の温かい配慮で、2024年の最優秀宣教師に選ばれ、5月29日の汝矣島純福音教会で行われる第50次世界宣教大会で表彰されるという知らせでした。まだ左半身はほとんど動かない状態でしたが、何としてもその前に退院するんだと言う肯定的な思いで夢を持ち、リハビリに励むことができたことは、何よりも主に感謝すべき出来事でした。

本来、6月末までリハビリを続けなければいけない状況でしたが、主の助けで5月に退院し、韓国に渡航することができるほどに回復しました。動かなかった左半身も徐々に動きを取り戻し、表彰の当日は杖は必要であったものの、登壇する事ができたことは、主の憐れみと慈しみであったことは言うまでもありません。

さらに感謝すべきことは、帰国後に礼拝を復活させ、今日まで主日・早天・水曜・金曜の礼拝を守れていることです。まだ完全ではなく、シャツを着るのに10分以上かかる状況ではありますが、杖を用いながら生活することができるほど、回復したのです。皆さんのお祈りに感謝申し上げます。そして、主の平安と喜びが皆さんの上に豊かにありますように、主の御名によってお祈りいたします。